

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立 武庫荘総合高等学校 職・氏名 主幹教諭 関根 徳浩	研究チーム名 (MCT mukonoso counseling teachers)
-----------------	-----------------------------------	--

研究テーマ分類番号 (18)

(1)研究テーマ
カウンセリングを活かした生徒指導
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>5月 具体的な研究内容の決定、今後の活動計画</p> <p>6月 実践例の把握、先行研究、各自の実践事例報告 方法：『カウンセリングテクニックを生かした新しい生徒指導のコツ』（学習研究社、2001）を読み、理解を深め、また 2009 年 8 月に全国学校教育相談研究会に参加した本研究チームの職員から「キャリア教育におけるキャリアカウンセリング」（『全国学校教育相談研究会第 44 回研究大会（兵庫県大会）大会集録 明日を拓く教育相談 「生きる力」を育むために 』兵庫県学校教育相談研究会、2009、pp.69-76.）についての実施報告を受け、研究・協議を行った。 課題：「カウンセリング」と「生徒指導」の違いは何か、わかるものなのか。</p> <p>7月 実践例の把握、先行研究、各自の実践事例報告（継続） 方法：2007 年 12 月に行われた広島大学大学院教育研究科准教授の講演会「ピア・サポートの理論と実践～子どもと作る生き生きとした学校～」に参加した本研究チームの職員から実施報告を受け、研究・協議を行った。 成果・課題：本研究チーム間での共通認識、共通理解が行えた。ただ、本研究チーム内だけでなく、全職員でこのような認識、理解を深めたい。</p> <p> 実践例の把握、先行研究、各自の実践事例報告（継続） 方法：本研究チームの職員が、武庫川女子大学教授講演（「生徒指導に活かすカウンセリングマインド・スキル基礎基本」）に参加し、その後、参加できなかったチーム員への講演会の報告・協議を行った。また、本校生徒、数人にスポットを当て、協議した。</p>

成果・課題：本校生徒数人の変化を追い、その変化のきっかけは何であったのかなど様々な話し合いを行った。今後も生徒指導やカウンセリングを行い、少数ではあるが生徒の変化を追っていきたい。

8月

先行研究（継続） Q - Uテスト（春）の結果による生徒の実態把握

方法：「児童生徒理解に基づく生徒指導について」（『兵庫教育 8月号』 pp.4 - 9）を読み、研究・協議を行った。また、昨年度分と今回のQ - Uテスト（春）結果を用いての生徒個人の比較（3年次）を行った。

結果：Q - Uテストの結果を見ると、修学旅行前と後では生徒の心情に大きな変化があったようだ。なかでも、Q - Uテストに示された「要支援」枠の生徒（様々な理由から支援が必要な生徒のこと。）に対する支援は、教員側の声かけ等、教員がすべきことはいろいろあるが、生徒による支援の方が効果が大きいという結果がはっきりと見て取れた。

10月

実践例の把握、先行研究（継続） 講演会の依頼

方法：追手門学院大学心理学部教授による論文（「キャリア教育におけるカウンセリング」）を読み、研究・協議を行った。また、これまで研究・協議を行ってきた中で、本校の実態に合った内容、取り組みたいと思っている内容に詳しい方を探し、講演会依頼の為の連絡を取り始めた。

12月

講演会準備

方法：職員会議にて本研究チームの活動内容の報告、職員の参加呼びかけ等を行った。

講演会

講師：追手門学院大学心理学部教授

テーマ：「キャリア教育と生徒指導」

対象、形式：本校職員、講義及びワークショップ

実施場所、参加人数：本校会議室、54人

内容：追手門学院大学心理学部教授による講義と、ワークショップを本校職員に向けて行っていただいた。講義においては、「現代の若者のこころの特徴」である「人間関係を形成することの困難さ及び重要性」についての講話と、「聞く」ことの大切さについて改めて考える機会をいただいた。また、ワークショップにおいては、日常的に行われる生徒との何気ない会話での教員の一言が与える影響、そして、こちらが「何を言うか」ではなく「何を聞くか」に重点を置くことの重要性を学んだ。